

誰もがいつまでも安心して 暮らせるまちづくりのために!



- ①必要とする人が、適切に利用できる
医療・福祉サービスの充実
 - ②住みやすさ、暮らしやすさを大切にする
まちづくり計画の推進
 - ③訪れてみたくなる、住みたくなる
魅力あるまち練馬の創造
- ★「健康寿命」伸ばして、いつまでも、いきいき、元気
★まちづくりは、地域で暮らす、ひとりひとりが主人公



未来を担う子どもたちの 健やかな育ちのために!

- ①親や家庭に合わせて選べる柔軟な
子育て支援施策の推進
 - ②真に子どもの立場に立った、子どものための
子ども関連施策の推進
 - ③子どもの貧困や、児童虐待を防ぐ
地域力の向上
- ★子ども・子育て新制度が4月本格スタート
★私たちひとりひとりが、地域の子どもと子育て家庭を見守り、支える気持ちを持つことが、一番大切



「美術の森緑地」が新しく生まれ 変わって平成27年4月オープン!

- ★中村橋駅北口、練馬区立美術館、サンライフ練馬に隣接する区民の憩いの場が、天然芝でさらに緑豊かに
- ★屋外展示や美術館の企画展、地域商店街などが協力して区内外から多くの人々が訪れる、練馬の観光スポットに



常任委員会 区民生活委員会 委員
 特別委員会 医療・高齢者等特別委員会 副委員長
 各種委員会 民生委員推薦会
 順天堂大学医学部付属練馬病院運営連絡協議会

ご相談は… **関口かずお 事務所**

〒176-0021 練馬区貫井 3-53-8

Tel / Fax : 3998-1752 HP : <http://www.k-sekiguchi.jp/>



関口かずお

練馬区議会議員 第五十九代議長

桃栗三年柿八年 議員の花実はいつ結ぶ

我が家には、ささやかな庭がある。折に触れて、気に入った木や草花を植えているので、居間からは、四季折々の眺めと、その木や花を眺めてに集う鳥や虫たちの息吹を、身近に感じることが出来る。

庭の木には、孫が気に入って買ったものもある。二番目の孫の、小学校入学記念に、彼が選んだのは河津桜であった。今年、六年生になる彼の桜は、いつしか大人の背丈ほどになり、春にはやさしいピンクの花を咲かせる。自分で大切に世話をし、彼が家を巣立つときに、この桜をもっていくというのが、彼との約束である。他の家族にも、それぞれに、おもいのある木や花がある。本当に小さい庭だが、家族にとっては、大切な場所である。

忙しい日々の中でも、時間を見つけては、庭の草取りや手入れをしたり、新たな草木を植えたりするのが、おもいのほか、育てるのが難しいものもある。そんなとき、おもいだすのが、「桃栗三年柿八年」ということわざだが、先日読んだ本で、このことわざに続きがあることを知った。その本の作者が気に入っているのは、「柚子は九年で花が咲く」だが、「柚子は遅くて十三年」、「梅は酸いとて十三年」、「枇杷は九年でなりかねる」、「梨の大馬鹿十八年」など、言い方は地方によって様々である。いずれも、収穫に至るまでの時期を表す俗言だが、転じて、物事が成就するまでには時間がかかる、ということわざになったものだ。

人生にも、「花を咲かせる」とき、「実を結ぶ」ときがあるだろう。自分にとってのその時期を、いつだと捉え、どのように迎えるのか。最近、自分自身に、よく、そう問いかけています。

関口和雄という、一本の議員の木は、三十余年の議員生活の中で、じっくりと時間をかけ、諦めることなく努力し、勉強し、精進を重ねてきた。若木の頃に比べれば、根も張り、幹も太く、枝も繁っているだろう。木としては、立派になったかも、しれない。

しかし、議員として生き、仕事をするにおいて、木が、花を咲かせること、実を結ぶこと、とは、何を指すのだろうか、と考えたとき、むしろ、今の木になったからこそ、咲かせられる花、結べる実があるのではないかと、おもってしまう。同じ花でも、我が家の庭で二番目の孫の河津桜が咲かせる花の可憐さと、我が母校、大泉高校の校庭にある樹齢を重ねた八重桜が咲かせる花の優雅さはそれぞれ違うが、その違いこそが、何物にも代えがたいそれぞれの木が持つ、特徴であり、すばらしさなのだ。

樹齢三十余年の議員の木として、今の自分だから、咲かせられる花、結べる実をもとめて、変わらず努力するつもりだ。